

## 『ちいさいうち』

バージニア・リー・バートン 文と絵

いしいももこ 訳

岩波書店 1965年



どこかの世界。

絵本についてすこしお話しします。最初は私の大好きな1冊、『ちいさいうち』を紹介します。

この作品はアメリカで1942年に発行され今日までずっと愛されている作品ですから、幼いころにお読みになった方も多いのではと思います。

子どもたちはいつの時代も同じように、この本から広がる外国の文化の匂いに驚いたり、疑問に思ったりしながら何度もページをめくります。太陽は表情豊かに黄色で描かれ、子どもたちは裸で池に飛び込んでいます。

何より不思議に思うのは

「なつやすみがすんで、こどもたちはがっこうにいきはじめます。」

と言う文章と絵。

…なぜ太陽は赤じゃなくて、泳ぐときに水着をつけず、ことさら1学期ではなく2学期の始まりを言うのか…

この作品は幼い子どもに、自分が小さい存在で、どこかに自分の知らない豊かな世界が広がっていること、大きな時間を導く誰かがいることをそうと言わずに知らせます。

ずいぶん昔の作品ですが、私達の子どもたちにも、そのまた子どもたちにも読んで欲しい1冊です。

2019年8月30日 梅崎啓子